

国語科の主張

1 教科で育みたい人間像

社会の変化に伴い、人々の価値観は多様化しています。このような社会を自分らしく、幸せに生きるためには、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを受け止めたりしながら、よりよい人間関係を構築していく必要があるのでしょう。つまり、豊かなコミュニケーションの力が求められているのです。

ここで言うコミュニケーションの力には、事実(叙述)を正確にとらえたうえで、自分が意図したことを正確に伝えるためにどのような言葉を選択するのかという、発信時における言葉を吟味する力と、他者の発した言葉の意図を受けとめる(見抜く)ために、その言葉の背景を的確にとらえようとする、

受信時における言葉を吟味する力の両者を含みます。

双方向の言葉を吟味することは、互いの思いや考えをより正確に、そして豊かに伝え合うことでもあります。つまり、言葉の吟味は思いや考えの吟味であり、結果として人を育むことにつながるのだと考えます。

私たちは、子どもたちが言葉や文章を介して、自他の思いや考えと向き合うとともに、適切なコミュニケーションを通じて、「よりよい人間関係を構築できる人間」に成長してほしいと願っています。

2 私たちが大切にしたいこと

私たちは、授業において子どもたちの「自分の思いを的確に伝えようと言葉を吟味する姿」や「言葉を介して仲間の思いを受けとめる姿」をより多くの場面で生み出したいと思います。そうすることで、「共に創りあげる授業」が具現化され、「よりよい人間関係を構築できる人間」が育まれると考えています。

上記のような子どもの姿を生み出す手立てとして、次の点を大切にしたい授業づくりをすすめていきたいと思っています。

切実感を生む題材の選定と授業構想

- ・ 言語活動の場の設定
- ・ 自分自身を振り返る場の設定

上記を大切にすることで、子どもたちは、自分の思いをより的確に伝えようと言葉を吟味したり、注意深く仲間の思いを受けとめたりするでしょう。この繰り返しが、子どもたち自身の考えを深めるとともに、言語に対する感性を磨くことになると考えるからです。

授業構想において、言語活動の場を設定することにより、子どもたちが語り合いながら互いの考えをすり合わせ、考えを深めていく姿が多く見られると考えます。この語り合いが、言語に対する感性を磨き合う場になると考えています。また、詩や俳句等の創作において、作品の表現について、グループで推敲活動を行ったり、説明的文章を読み、内容や表現について批評文として記したりすることも大切な言語活動です。さまざまな場を設定し、子どもたち

同士の対話を生み出すことで、言語に対する感性や表現力、コミュニケーション力を育みたいと考えています。

そして、自分自身を振り返る場を設定することも大切にしたいと思います。題材での学び合いによって深められた理解を自分で見つめ直すことにより、言語感覚を育むとともに、より豊かな人間性を育むことにつながると考えるからです。

こうした学びを実現するために、子どもたちに「自分の考えと仲間の考えをすり合わせる」という姿勢を意識してもらう必要があります。その際、鍵を握るのが、『問いの共有』です。もちろん『問い』は、子どもたち自身で設定しますが、『問い』を「どのような手順で解決していくのか」「それぞれの考えがどのように関わりそうか」といった見通しや考えの関連性を子どもたち自身がもっている状態(この状態を『問いの共有』と設定する)を意識する必要があると考えました。

子どもたちがこうした意識をもつことは、自分の考えが集団の学びに生きるのではという期待感ややりがいを生み出すことにもなるでしょう。

仲間とともに創りあげる経験のある子どもを育むことは、人間関係を構築できる人を育むことにもなるはずです。そのため、私たち教師も、ともに創りあげる仲間の一人として学び合いに参加し、「よりよい人間関係を構築できる人間」を育んでいきたいと思っています。